空間データ表示

v71 新機能

ベクタ要素の自動ハイライト

TNT 製品の視覚化処理を使うと、カーソルを止めた時、その下や近くの要素の属性情報がデータティップとして表示されます。要素をハイライト表示するように設定することで、データティップを表示している要素を明確に特定する ・ Color Editor ことができます。ハイライトカラーは、要素の選択時の色と違う色に設定すること



ができます。表示ウィンドウ の[オプション>カラー>デー

DataTip)]を使って設定します。データティップ (Options / Colors / DataTip)]を使って設定します。データティップ自体の色は変わり ませんが、マウスを要素の上に置いた時の色が変わります。カー ソルの位置でハイライトする要素の数は、表示ウィンドウ中のレ イヤやデータティップの設定によって変わります。データティッ プを設定していないレイヤの場合、マウスを乗せてもそのレイヤ の要素はハイライトしません。

ハイライトしたポリゴンを塗りつぶすか否かは、そのベクタレ イヤの〈ベクタレイヤコントロール〉ウィンドウにある「ポリゴ ンの塗りつぶし (polygon filling)」の設定によります。





上の図では、全てのレイヤに対してハイライト時のポリゴンの塗りつぶしを不許可にしています。上図のような複雑 なレイアウトでは、" 洪水氾濫原 " や " 歴史的な管轄区域 " など、多くのレイヤで、ハイライト時のポリゴンの塗りつぶ しをオンにすると、他のレイヤのハイライト表示が不明瞭になります。下図 (右、左) のような単純なレイアウトでは、



ハイライトに塗りつぶし を使っても、情報を見失 うことがありません。

左右の図は、非表示の1レイヤの ハイライトを示しており、データ ティップの表示オプションは[な し (None)]または[可視レイヤ (Visible Layers)]以外に設定してい ます。右図のようにデータティッ プなしでハイライト表示したいと きは、データティップ用のフィー ルドに属性を割り当てません。

